

—せんぐう館 平成28年度 企画展示—

神宮の遷座

—攝社・末社・所管社—



展示期間 平成28年3月23日(水)～平成28年6月27日(月)

—目次—

1、ご挨拶	・・・3
2、摂社・末社・所管社とは	・・・4
3、遷座とは	・・・5
4、遷座の次第	・・・6
5、遷座の現況	・・・7・8
6、祝部	・・・9
7、外宮域内の摂社・末社	・・・10
8、霊元天皇の朝議復興と寛文9年式年遷宮	・・・11・12
9、大宮司河邊精長と寛文の摂末社復興	・・・13・14
10、おわりに	・・・15

凡 例

- ・この冊子は平成28年3月22日から平成28年6月27日にかけて式年遷宮記念せんぐう館において開催する企画展示「神宮の遷座—摂社・末社・所管社—」に際して作成したものです。
- ・本誌掲載の写真、地図および記事の複製・無断転載等は固く禁じます。

1、ご挨拶

第62回式年遷宮は、平成27年3月の外宮の別宮である
風宮の遷宮をもって完遂いたしました。

現在は、別宮の遷宮に引き続き、約10年を掛けて、109の
せっしゃ まっしゃ しょかんしゃ せんざ
摂社・末社・所管社の遷座が行われております。

今回の企画展示では、昨年より始まりました摂社以下の遷
座に焦点を当てます。

神宮125社の中の摂社・末社・所管社とはどのような神社
なのか、また遷座とはどういうことなのかということに触れ、さらに
かんぶん
寛文3年(1663)の式年遷宮に際して行われた摂社以下の復
興についても紹介いたします。

平成28年3月23日

式年遷宮記念

せんぐう館

2、摂社・末社・所管社とは

神宮125社の中で、摂社・末社・所管社は109社あり、下記のように分けられます。

	摂 社	末 社	所管社	計
内 宮	27	16	30	73
外 宮	16	8	4	28
瀧原宮			3	3
伊雑宮			5	5
計	43	24	42	109

鎮座地は伊勢・松阪・鳥羽・志摩の4市、度会・多気の2郡の広範囲に渡り、いずれも神宮ゆかりの地です。

◆**摂 社**＝『えんぎしき延喜式』(延長5年〔927〕成立)の中のじんみょうちょう神名帳に記載されている神社

◆**末 社**＝『えんりやくしきちょう こうたいじんぐうしきちょう と ゆ け ぐ う し き ちょう延暦儀式帳(皇大神宮儀式帳・止由気宮儀式帳)』
(延暦23年〔804〕成立)に記載されている神社

◆**所管社**＝摂社・末社以外で古くから神宮に由緒がある神社
特に衣食住に係る神社が多い

摂社以下の神社の多くは天照大神のごせんこう御遷幸の際に、倭姫命やまとひめのみことによる御創建ごそうけんと伝えられ、その起源は遠く古代にあります。

神嘗祭・六月月次祭・十二月月次祭・祈年祭・新嘗祭には神職が赴き、祭典が斎行されます。

3、遷座とは

遷座は しゅうぜん 修繕 と ぞうたい 造替 に大別されます。

◆修繕 = 新しい御殿ごてんとなってから20年目に朽ちた部分を直すこと

◆造替 = 修繕からさらに20年後に新しい御殿を造ること

正宮・別宮の式年制に準じた形を採っていますが、全ての摂社以下の神社の修繕や造替が完了するまでは約10年掛かる長期の計画になるため、各御殿の状況を正確に把握して遷座されます。

また、正宮・別宮の遷宮は天皇陛下の御治定ごじじょう(お定めになること)によって進められますが、摂社以下の遷座は神宮大宮司の責任のもと、その全てを神宮司廳じんぐうじちょうが掌つかさどって進められます。

4、遷座の次第

遷座前日

- 一、鎮^{ちん}地^ち祭^{さい}
- 一、立^り柱^{つち}祭^{うさい}
- 一、上^{じょう}棟^{とう}祭^{さい}

新^{しん}殿^{でん}の大^お宮^み地^{やどころ}に坐^ます神^{かみ}を鎮^{しず}める
新^{しん}殿^{でん}の御^ご柱^{ちゆう}を立^たて打^うち固^かめる
新^{しん}殿^{でん}の棟^{むなぎ}木^ぎを揚^あげる

遷座当日

- 一、洗^{あら}清^い
- 一、杵^こ築^{つき}祭^{さい}
- 一、後^ご鎮^{ちん}祭^{さい}
- 一、川^{かわ}原^{はら}大^お祓^{はらい}
- 一、御^お飾^{かざり}
- 一、遷^せ座^ざ

竣^{しゅん}工^{こう}した新^{しん}殿^{でん}を洗^{あら}い清^いめる
新^{しん}殿^{でん}の御^ご柱^{ちゆう}の根^ね元^{もと}を白^{しろ}杖^{じょう}で突^つき固^かめる
竣^{しゅん}工^{こう}した新^{しん}殿^{でん}が平^{へい}安^{あん}に守^{まも}護^ごされ^ること^を大^お宮^み地^{やどころ}に坐^ます神^{かみ}に祈^{いの}る
御^ご装^{しょう}束^{そく}神^{しん}宝^{ほう}を始^はめ、遷^{せん}座^ざに奉^{ほう}仕^しする者^{もの}を祓^はい清^いめる
新^{しん}殿^{でん}内^{うち}を装^{しょう}飾^じし、遷^{せん}座^ざの準^{じゅん}備^びをする
新^{しん}殿^{でん}に御^ご神^{しん}体^{たい}をお遷^{せん}しする

遷座翌日

- 一、大^お御^お饌^{みけ}
- 一、奉^{ほう}幣^{へい}

新^{しん}殿^{でん}で初^はめて神^{しん}饌^{せん}をお供^くえする
新^{しん}殿^{でん}で初^はめて幣^{へい}帛^{はく}を奉^{ほう}る

修繕^{しゆせん}や造替^{ぞうかひ}、隣^みに御^ご敷^{しき}地^ちを備^{そな}えているかなどによつて次第^{しだい}は変わりますが、こゝで紹^{しょう}介^{かい}しましたのは、摂^せ末^{まつ}社^{しゃ}の中^{ちゆう}で新^{しん}御^ご敷^{しき}地^ちがある造替^{ぞうかひ}の遷座^{せんざ}の次第^{しだい}です。

遷座^{せんざ}の次第^{しだい}は別宮^{べつぐう}の遷御^{せんご}に準^{したが}つた形^{かたち}がとられ、造替^{ぞうかひ}の遷座^{せんざ}では、御殿^{ごでん}から御装束神宝^{ごしょうそくしんほう}に至^{いた}るまで新調^{しんてう}されま

5、遷座の現況

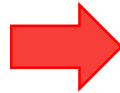
摂末社の遷座は平成27年から始まりました。下記の期日に各神社が遷座致しました。平成28年も遷座が予定されています。

平成27年

5月22日 皇大神宮 摂社 ^{そな い}園相神社二座 修繕



9月15日 豊受大神宮 摂社 ^{し と み}志等美神社・^{お お こ う ち}大河内神社 造替



10月9日 豊受大神宮 末社 ^{う ち か け}打懸神社 造替



11月13日 皇大神宮 所管社 かん は とり は た の 神服織機殿神社 造替



12月10日 皇大神宮 所管社 かん お み は た の 神麻統機殿神社 造替



6、^{ほうり}祝部

かつて摂社・末社は祝^{はふり}という職の者が宮司より任命され、その守護を行っていました。現在も、その流れを引き継ぐ祝部が両宮域外の摂社以下の神社に置かれており、平素の管理を行い、祭典に参列します。

遷座をする神社の中には祝部を始め、地元崇敬者が奉仕する神社もあります。神宮の摂社以下の神社は、古くから住まいの近くにある^{うじがみ}氏神的存在を兼ねる神社も見られます。そのような点で、正宮とは趣を異にし、地元に着した性格を有するところも特徴であると言えます。



機殿神社遷座奉仕者

7、外宮域内の摂社・末社

外宮の域内に鎮座されている摂社・末社を紹介いたします。

① 豊受大神宮 摂社 わたらいくに み 度会国御神社

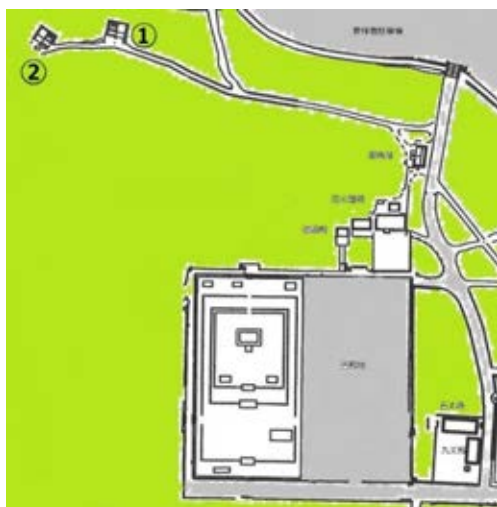


御祭神は伊勢国造・度会神
主の祖とされる彦国見賀岐建
與束命です。

② 豊受大神宮 末社 おおつ 大津神社



御祭神は葦原神(潮の神〔浜
辺の神 大津明神とも称する〕)
と云われています。



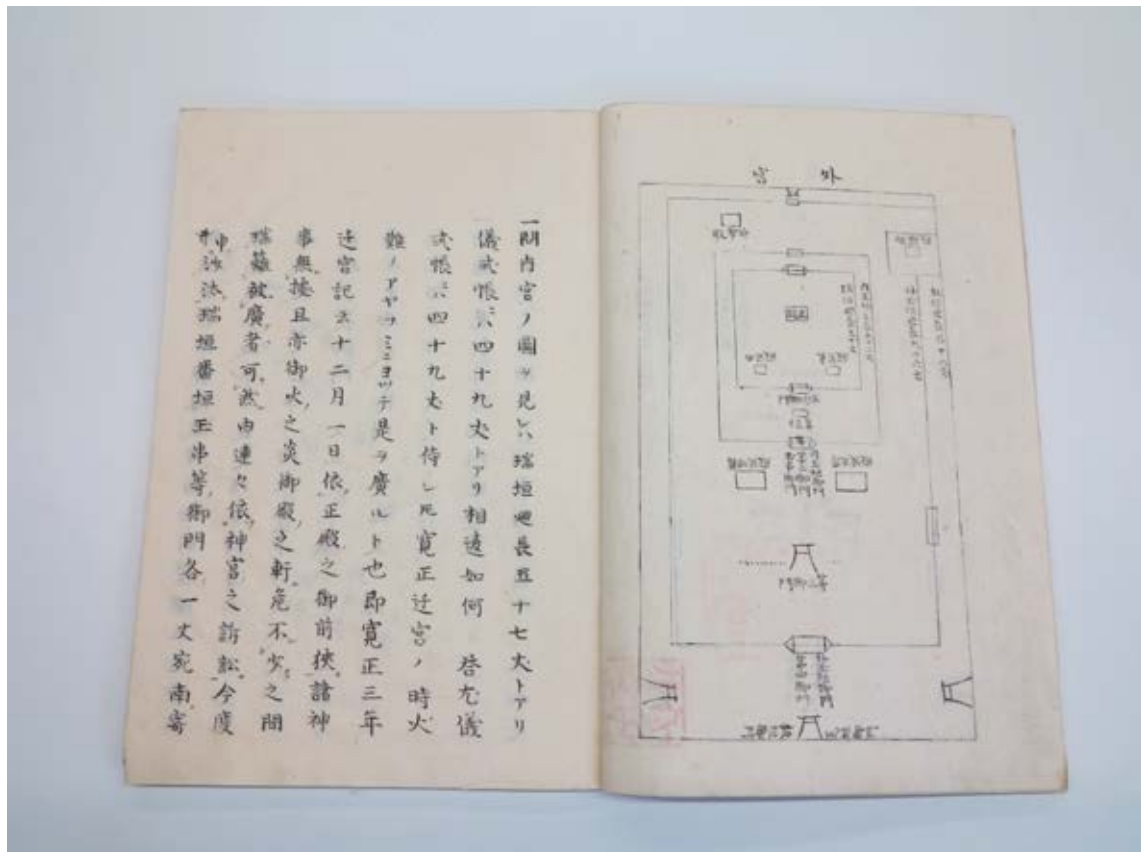
外宮域内図

※地図中の番号のところに御鎮座
しています。

れいげん ちょうぎ
8、靈元天皇の朝議復興と寛文9年式年遷宮

だいじんぐうぞうせいわくもん
◆『太神宮造制或問』

くじょうおおうちんど なかにしのぶよし
寛文7年(1667年) 外宮宮掌大内人 中西信慶 編



霊元天皇の寛文9年(1669年)第45回式年遷宮に際して、御垣と御門の再興を願った大宮司河邊精長は、嫡男故長と小田成近・中西信慶と共に外宮・内宮の御正殿を囲む御垣(内玉垣・外玉垣・板垣)と御門の寸法と仕様について意見交換した記録。

寛文9年の式年遷宮では内玉垣は再興されるが、外玉垣と板垣については明治22年(1889年)第56回式年遷宮を待つことになる。

◆『寛文九年^{げくうしゅうせんぐうき}外宮正遷宮記』

くろせますひろ
黒瀬益弘

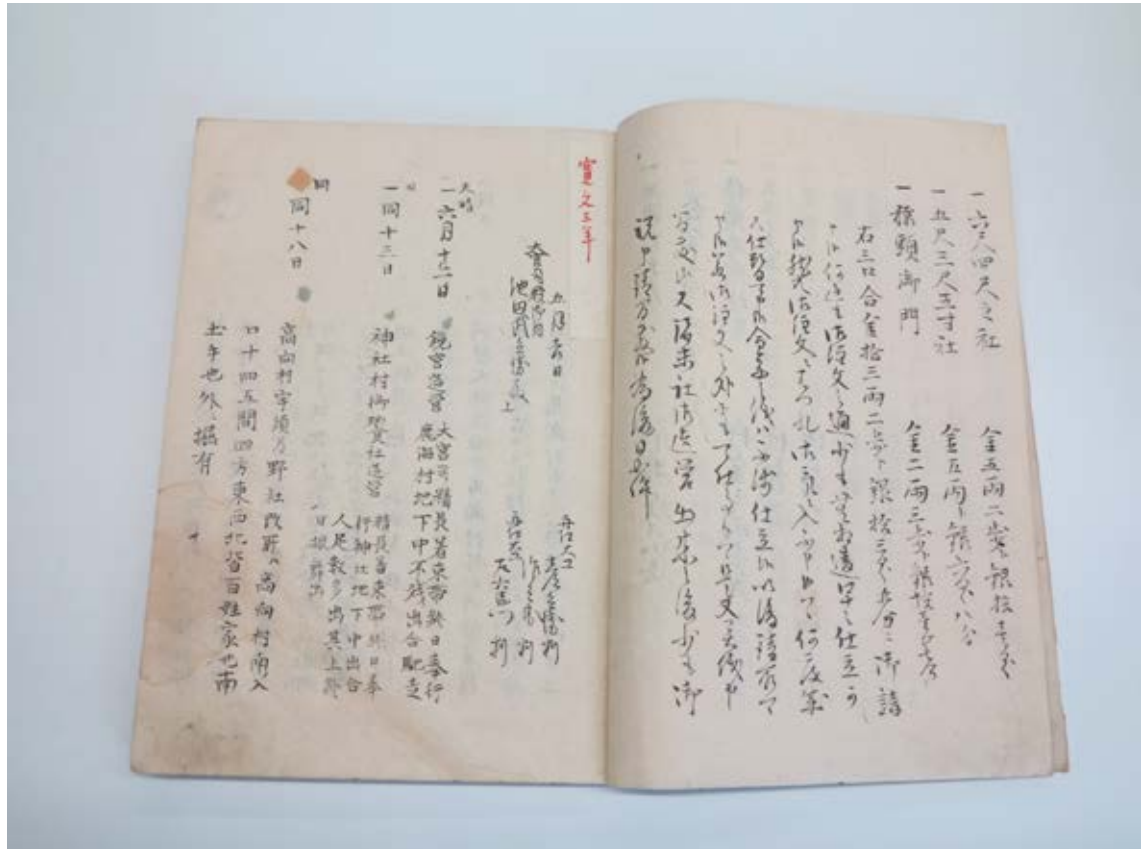


霊元天皇の寛文9年(1669 年)に行われた外宮正遷宮(第45回式年遷宮)の記録。

この遷宮では祭主^{ふじなみかげただ} 藤波景忠・大宮司河邊精長・外宮禰宜^{まつきまたひこ} 松木全彦等の奉仕により行われ、内宮と共に内玉垣、四方の各御門と板垣^{あらがき}(荒垣)鳥居が再興され、祭典は御船代祭と後鎮祭^{みふなしちさい}が再興^{ごちんさい}された。将軍徳川家綱^{いえつな}の名代^{みょうだい}として吉良上野介義央^{きらこうぜのすけよしひさ}が参宮している。

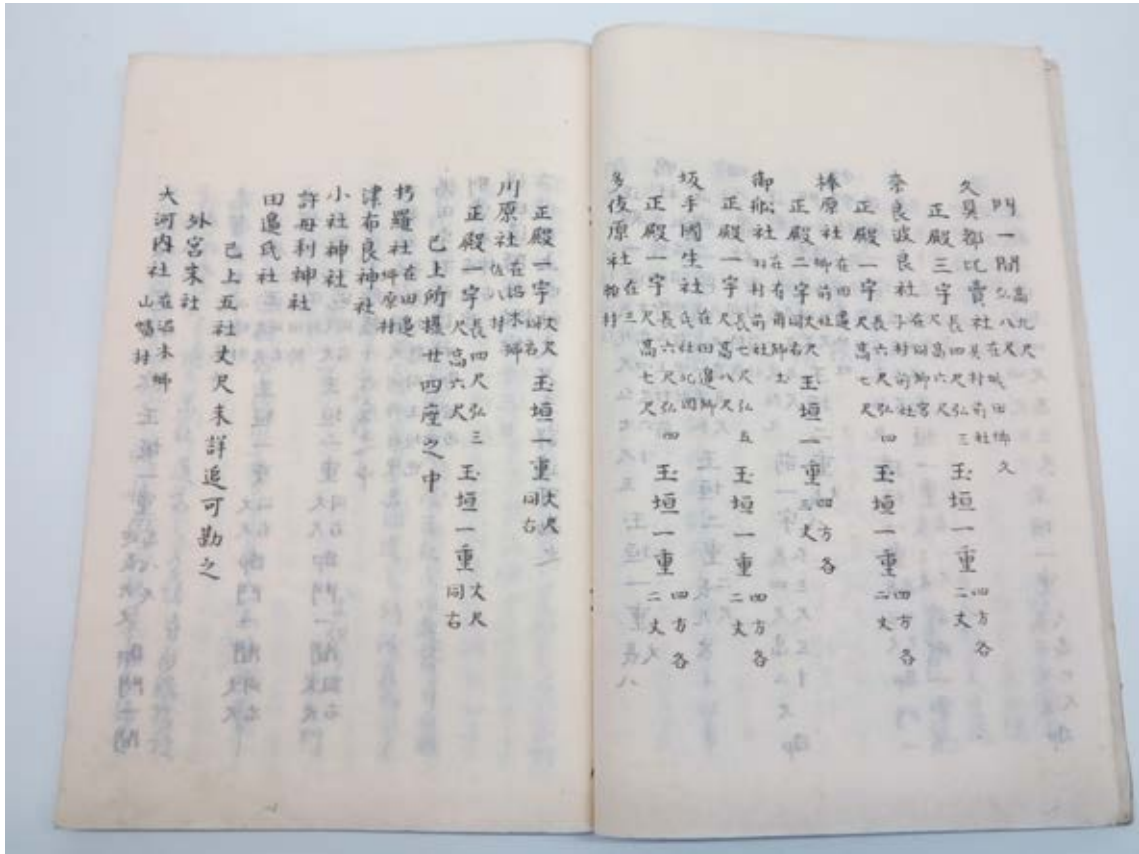
9、大宮司河邊精長と寛文の摂末社復興

◆『寛文摂社再興記』



寛文3年(1663 年)に再興された摂社の記録。大宮司河邊精長は興に乗り、供を連れて「宮地改め」を行い、現地の百姓に字名を聴き取りし、「天平賀」の土器片の採集などで宮地を比定した。精長は御社の造営に際して、束帯を着けて終日奉行している様子が記されている。

だいぐうじきよながしよしゃさいこうさ たぶみ
◆『大宮司精長諸社再興沙汰文』



寛文3年(1663 年)に再興された摂社の記録。大宮司河邊精長は旧記を繙いて宮地を比定し、再興する摂社の御殿や御垣・御門の大きさを書き記している。寛文3年には外宮 16 社・内宮 24 社の計 40 社が再興された。

10、おわりに

第62回式年遷宮は完遂いたしましたが、摂社・末社・所管社の遷座は現在も続いております。

この遷座が完遂する頃というのは、次期遷宮に向けての準備が本格化する頃ということでもあります。

本企画展において、神宮では、先人たちの心が受け継がれ、今も生き続けているということを感じ取って頂ければ幸いです。